

海南地区公共用水域ダイオキシン類環境継続調査結果 及び水生生物調査結果について

海南地区公共用水域におけるダイオキシン類濃度の推移を把握するため、図1の地点にて、継続的に水質、底質及び水生生物調査を実施しています。

令和5年度の調査結果は以下のとおりです。

水質 すべての地点で、環境基準値（1pg-TEQ/L）以下でした（表1、図2）。

底質 地点K4において、環境基準値（150pg-TEQ/g）を超過していましたが、全体として減少・横ばい傾向にあります。（表2、図3）

水生生物 平成11年度環境庁水生生物全国調査の全国平均と同程度の値となっています（表3、表4、図4）。

底質のダイオキシン類濃度が環境基準値を超過していますが、水質及び水生生物の調査結果から、底質の影響は見られません。

環境中のダイオキシン類濃度については、今後も引き続き注意深く監視を続ける必要があることから、調査を継続していきます。



図1 調査地点図

表1 水質調査結果

調査地点	調査結果 (pg-TEQ/L)					環境基準値 (pg-TEQ/L)
	夏季		冬季		年平均	
	測定日	結果	測定日	結果		
日方川 新湊橋	R5. 10. 31	0. 18	R6. 1. 12	0. 087	0. 13	1
山田川 海南大橋	R5. 9. 27	0. 17		0. 12	0. 15	
海南海域 St. 2	R5. 7. 19	0. 086	R6. 1. 12	0. 074	0. 080	
海南海域 St. 3		0. 082			0. 082	
海南海域 St. 4		0. 064			0. 064	
海南海域 K1		0. 095	R6. 1. 12	0. 08	0. 088	
海南海域 K2		0. 10		0. 088	0. 094	
海南海域 K3		0. 070		0. 097	0. 084	
海南海域 K4		0. 16		0. 096	0. 13	

備考：毒性当量の算出には、WHO-TEF(2006)を用いている。

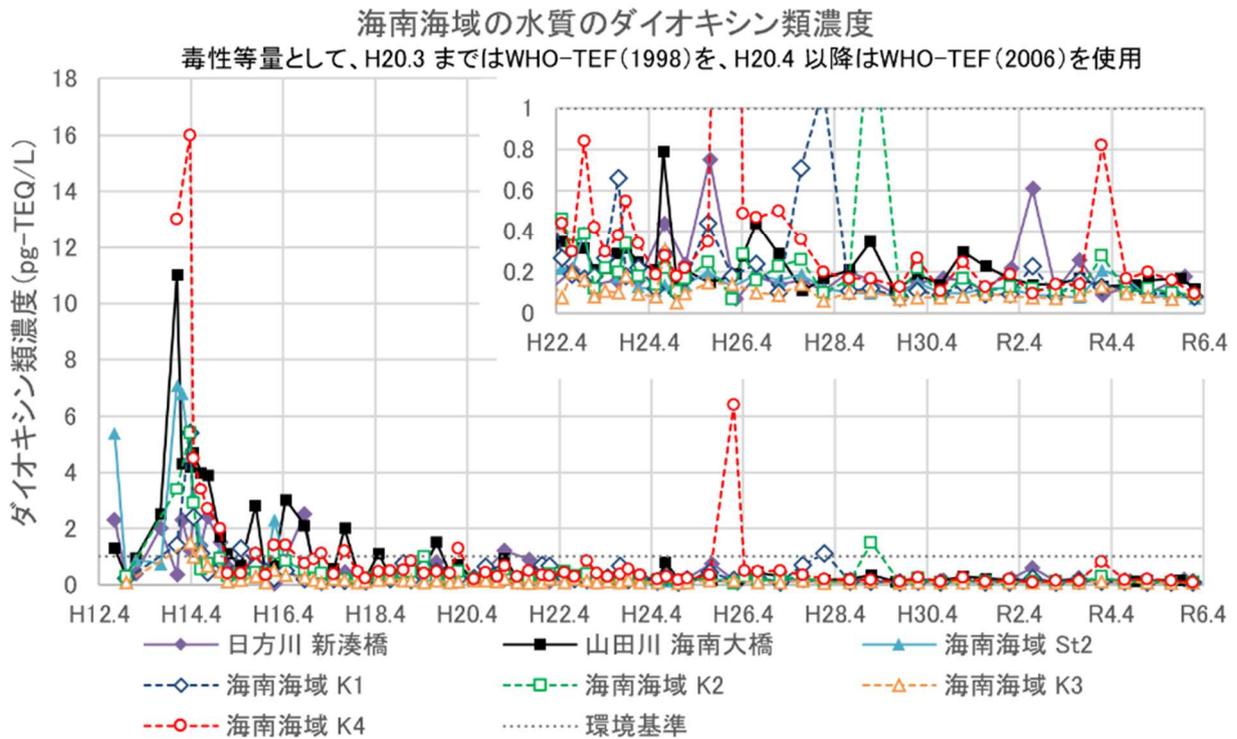


図2 水質調査結果の経年変化

表2 底質調査結果

調査地点	調査結果 (pg-TEQ/g)				環境基準値 (pg-TEQ/g)
	夏季		冬季		
	測定日	結果	測定日	結果	
日方川 新湊橋	R5. 9. 27	2. 2	R6. 1. 12	6. 5	150
山田川 海南大橋	R5. 9. 27	67	R6. 1. 12	18	
海南海域 St. 2	R5. 7. 19	49	R6. 1. 12	37	
海南海域 St. 3		13			
海南海域 St. 4		0. 52			
海南海域 K1		3. 6	R6. 1. 12	9. 1	
海南海域 K2		58		51	
海南海域 K3		27		30	
海南海域 K4		190		260	

備考：毒性当量の算出には、WHO-TEF(2006)を用いている。

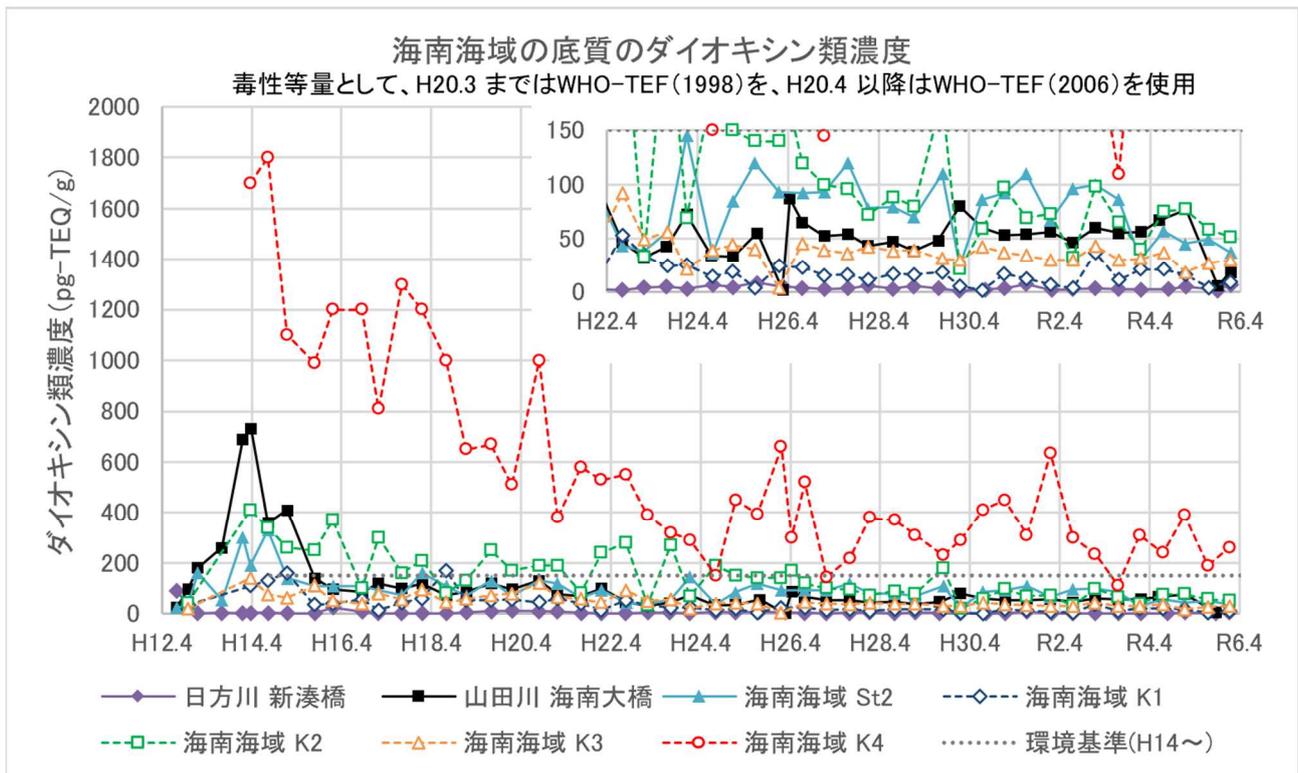


図3 底質調査結果の経年変化

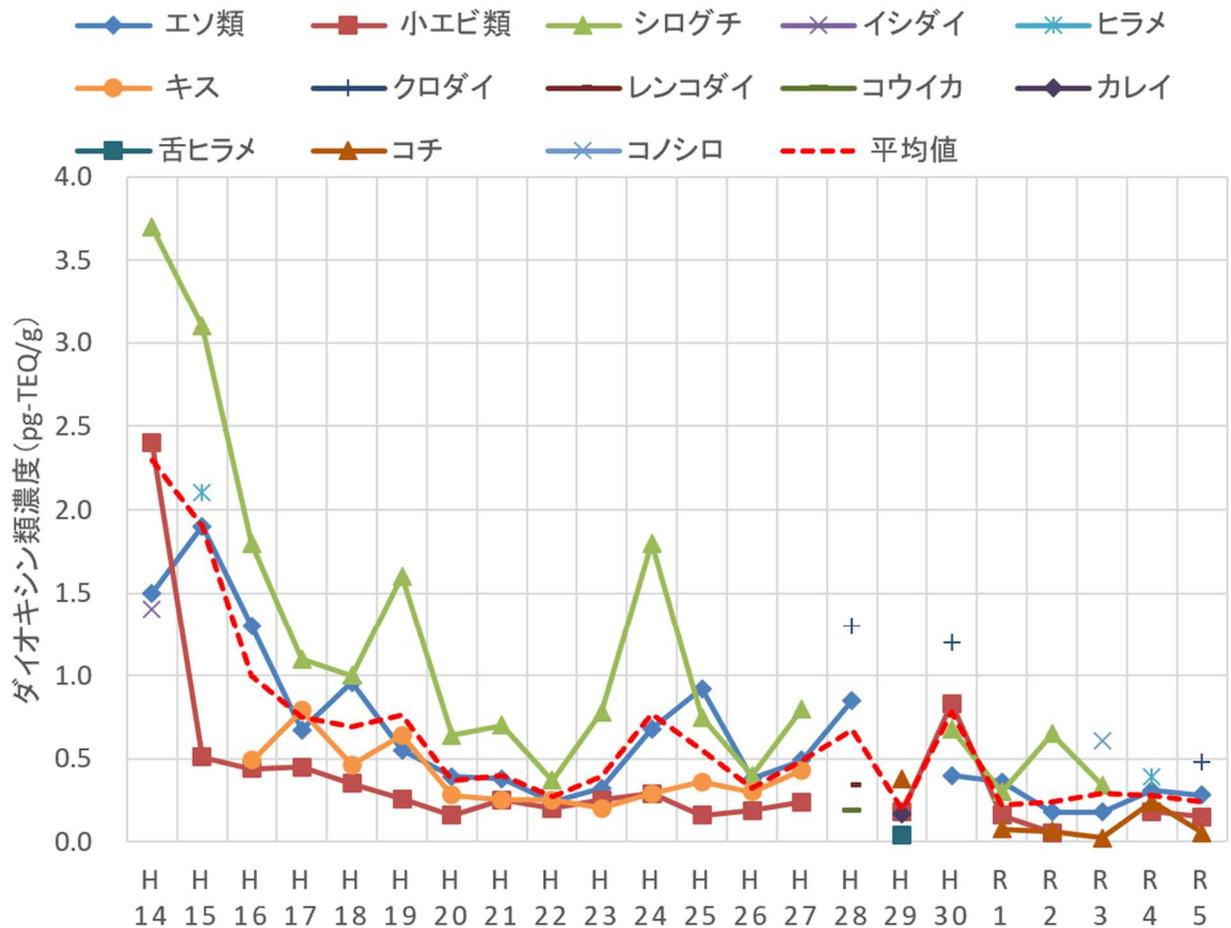
表3 水生生物調査結果

調査魚種	採取年月日	調査地点	調査結果 (pg-TEQ/g)
エソ類	R5. 6. 10	海南海域 St. 1 周辺	0.28
小エビ類			0.15
クロダイ			0.48
コチ			0.053
全魚種平均値			0.24

備考：毒性等量の算出には、WHO-TEF(1998)を用いている。

表4 (参考) 平成11年度環境庁全国調査結果

調査魚種	検体数	調査結果 (pg-TEQ/g)		
		最小値	最大値	平均値
全魚種平均値	2,832	0.032	33	1.4



備考：平成14、15、平成28～令和5年度においては、採取可能な底層魚により調査を実施

図4 水生生物調査結果の経年変化